

# 講演要約

「自動車の生産技術の一考察」 仕事の仕方の比較論

2008年7月11日(金)、機械部会講演 技術士(機械、総合)馬縹(まつなぎ)宏

連絡先 TEL/FAX 045-843-9192、メール：[et5h-mtng@asahi-net.or.jp](mailto:et5h-mtng@asahi-net.or.jp)

KEY WORD : 自動車、生産技術、海外業務、技術比較論、

自動車の生産技術に長年従事してきたが、特に近年の海外での技術指導を通じて、日本ではありえないような業務体験をした。一般論としては、日本における業務上の常識は海外では通用しないのは当然であり、このあたりの認識と事前準備の不足が原因である。

最近、ギョーザ事件やオリンピックなどで、中国についてのマスコミの報道解説や解説書が数多く出版されている。しかし私の場合は、それ以前の時期であり、参考書は割合少なかったが、これらを業務開始前に一読しておけば、問題発生時の対応策が異なっていたと反省している。将来、海外で業務を行なう予定の方は、仕事の仕方が国により大きく異なる事を認識して、前以て周到な調査・準備される事を望みたい。

本講演では近年体験した中国、韓国、ドイツの生産技術に関連した日本との比較論を述べる。この中では、日本人には理解できない大きな国民性などの相違点が存在する。その相違点の存在理由は何かについて考えると、その根底には各国の過去の経済、政治、歴史の経緯であり、この理解が必要である。特に、日本では過去150年ぐらいの日中韓の歴史と現在の関係についての学校教育は僅かであり、大半の人は状況把握が不十分と予想されるので、今後この2国との業務を始める人は、事前に歴史の学習する事が必要である。参考文献として講演の最終頁に参考書名とその内容の要旨を記載しておいた。

## 1. 日中韓の共同プロジェクト

日韓の自動車の開発経験者が集まり、中国の新車の量産立上げを8ヶ月にわたり支援した。この期間に予想外の事態に数多く遭遇したが、当時はその理由が理解できなかった。業務完了して帰国後に、各国の国民性や思想、歴史などの参考書を読んだら、これらの理由が理解できた。生産技術に関する考え方についても、国の経済の状況や政策、技術導入の経過や国の歴史などを総合した国民性が前提にあり、これらの理解が必要である。

エンジニアは、専門技術に特化しがちであるが、時には、全く異なる人文分野の思想や歴史を学ぶ必要があると考える。

## 2. ドイツの研究と比較

日本ではライバル製品との比較研究と改善競争が激しく、これが日本の競争力を強化させてきたといえるが、日本の自動車のライバルは、世界のどこでもドイツであり、生産技術についても日独では思想の違いが大きい事を実感した。その事例をいくつか挙げて日独比較論を述べる。

最後のまとめとして、次の事項を述べる。上記諸外国との実務経験からの各国の生産技術面の比較論と日本の昔からの伝統のある思想や慣習と対比させて、従来からの日本式の経営、技術、仕事の仕方については外国にない特徴があり、今後の日本の発展のためには、これを維持、拡大すべきと考える。